特集

トキが舞い戻る　能登の空へ

1 はじめに

本州最後のトキの生息地であり、トキとゆかりの深い石川県では、トキを生物多様性と里山保全のシンボルとして、トキの分散飼育や環境教育などさまざまな取り組みを進めてきました。こうした取り組みが実り、今年５月31日に本州初となるトキの放鳥が羽咋市で行われました。

本特集ではそれを記念して、石川県とトキの関わりから放鳥に至るまでの道のりをご紹介します。



大空を飛翔するトキ

2 トキと石川県との関わり

トキはかつて、県内各地で見ることができました。しかし、開発や乱獲など人間の活動によって年々数を減らし、昭和45（1970）年に本州最後のトキ「能里（のり）」が穴水町で捕獲されたことで、本州から姿を消しました。昭和56（1981）年には国内で最後に残っていた５羽も佐渡市で捕獲され、日本の野生のトキは姿を消すことになりました。

一度は姿を消したトキですが、再びトキを野生に戻すため、新潟県の佐渡トキ保護センターでは飼育繁殖が進められました。長らく佐渡島のみで人工繁殖の取り組みが続けられてきましたが、鳥インフルエンザなどの感染症が発生すると絶滅のおそれもあることから、国が平成15（2003）年に分散飼育の方針を打ち出しました。石川県はいち早く受け入れを表明し、いしかわ動物園でトキの近縁種の飼育繁殖の経験を積み重ね、平成22（2010）年１月にトキの分散飼育が始まりました。

平成28（2016）年９月には、本州では初となるいしかわ動物園での一般公開が決定し、同年11月に公開展示施設「トキ里山館」がオープンしたことで、トキが飛翔する姿や泥の中の餌（えさ）をついばむ様子などを観察できるようになりました。

3 トキが能登の空に戻るまで

◇トキ放鳥に向けた取組

令和３（2021）年、国は、野生下での感染症等のリスクを避けるため、本州での放鳥の方針を示し、令和４（2022）年５月にトキの放鳥候補地の公募を開始しました。

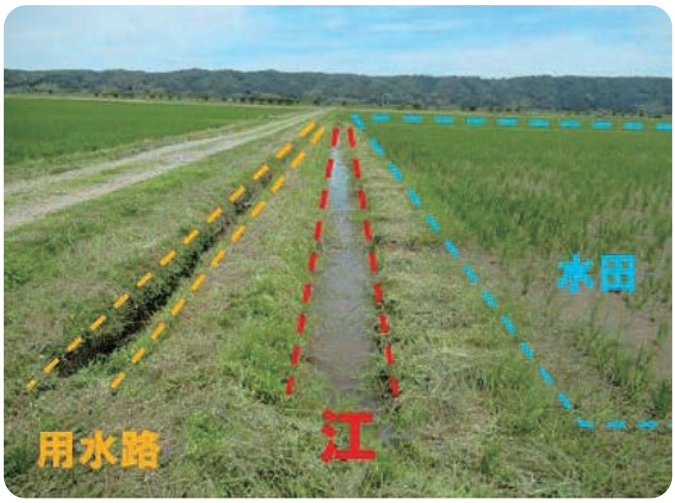
これを受けて、県は能登４市５町及び関係団体と共に「能登地域トキ放鳥受入推進協議会」を設立し、能登地域を放鳥候補地として申請した結果、同年８月に能登地域が放鳥候補地に選定されました。

放鳥候補地となった後は、生息環境整備として、能登地域の４市５町に１地区ずつ「トキ放鳥推進モデル地区」を選定し、化学肥料や農薬の使用量軽減、生き物の棲みかとなる「江（え）」やビオトープの設置などトキの生息環境に配慮した米づくりを推進するほか、社会環境整備として、気運醸成を目的としたイベントの開催やトキの生態等を学べるデジタルコンテンツの制作といった環境教育の取り組みを推進しました。

令和６（2024）年元日に、能登半島地震が発生、多大な被害を受けた能登４市５町ですが、復旧を最優先にしながらも、復興のシンボルとして、トキ放鳥をあきらめない姿勢を示したことから、県は創造的復興プランにおいて、「トキが舞う能登の実現」をリーディングプロジェクトに位置付け、トキ放鳥に向けた取り組みを継続しました。



トキ放鳥推進モデル地区一覧



生き物の棲みかとなる江などの整備

◇本州初のトキ放鳥

令和７（2025）年２月にこれまでの取り組みが国から高く評価され、令和８（2026）年上半期中の能登地域でのトキ放鳥が決定しました。

放鳥決定後は、トキの天敵となり得る野生動物の生息状況や本州固有の課題を調査したほか、能登地域トキ放鳥 PR キャラクター「のとっきー」を制作し、「のとっきー」を活用した啓発ポスターの掲示や能登空港で階段ラッピングを実施するなど、気運醸成を図り、本州初の放鳥に向けた準備を進めました。

令和８（2026）年５月31日に、秋篠宮皇嗣同妃両殿下の御臨席の下、羽咋市で能登地域トキ放鳥記念式典を開催し、余喜グラウンドゴルフ場で行われた放鳥式では、放鳥箱から直接トキを放つハードリリース方式で８羽を放鳥し、56年ぶりにトキが能登の空を舞いました。

また、６月14日には、仮設の放鳥ケージで２週間飼育し、周囲の環境に慣れさせてからトキを放つソフトリリース方式で10羽を放鳥しました。

さらに、10月７日に中能登町春木地区周辺でソフトリリース方式により、２回目の放鳥を行いました。



能登空港での階段ラッピング



能登地域トキ放鳥 PR キャラクター
のとっきー



羽咋市での放鳥式の様子

トキ放鳥までの石川県の歴史

明治時代	乱獲や生息環境の悪化が進み、急速に生息数が減少
昭和45（1970）年	穴水町で本州最後のトキ「能里（のり）」が保護され、本州のトキが絶滅
平成15（2003）年	日本産のトキが絶滅
平成22（2010）年	いしかわ動物園で分散飼育を開始
平成28（2016）年	いしかわ動物園「トキ里山館」で一般公開開始
令和４（2022）年	能登地域トキ放鳥受入推進協議会を設立
令和７（2025）年	能登地域でのトキ放鳥が決定
令和８（2026）年	本州初のトキ放鳥を羽咋市で実施、２回目の放鳥を中能登町で実施

コラム「のとっきー」の利用

虹色の羽を広げ、能登に幸せを運ぶ姿をイメージした「のとっきー」は、お辞儀や羽ばたくポーズなどバリエーションも豊富です。トキ放鳥ＰＲや土産物など、届出をすれば無料で幅広く活用できます。※一部、届出が不要となる例外があります。

「のとっきー」プロフィール

・誕生日：５月22日（いしかわトキの日）
・出身地：能登
・性格：どんな時も前向きであきらめない、やさしく素直な性格
・背景・ストーリー：虹色の羽をきらめかせ、能登の里山里海を自由に飛びまわることが大好きです。人と自然をつなぎ、復興のシンボルとして、能登へ幸せを運び、その魅力をみんなに届けています。







「のとっきー」のデザイン利用について（https : //www.pref.ishikawa.lg.jp/sizen/toki/toki-designsiyou.html）

― 4 トキと共生する能登をめざして

本州初の放鳥により、能登でトキを見かける機会が増えますが、トキは非常に繊細で、人との適度な距離感が保たれて初めてこの地に定着することができます。

私たちが観察マナーを守ることで、能登をトキにとって安心して暮らせる場所とすることにつながります。能登の豊かな里山里海をトキの新しい故郷にするために、優しさを持った見守りをお願いします。

また、トキ放鳥後の定着に向けて、トキの分布等の把握や今後の野生復帰に活用するため、目撃情報を募集しています。野生のトキを見かけたら、ぜひ情報をお寄せください。



トキの目撃情報入力フォーム（https : //toki-mokugeki.jp/）

コラム「トキを見かけたら」

トキは臆病な性格です。人が近づくと、驚いて飛び立ち、十分にエサをとれなくなります。トキを観察する際はマナーを守り、やさしく見守っていただくことで、人とトキが共生する能登の豊かな自然環境が守られます。

県では、観察マナーを周知するための動画「もしも、トキを見かけたら！」を４本制作しています。ぜひご覧ください。

「トキの観察マナー」

・トキに近づかず、やさしく静かに見守りましょう
・繁殖期間は巣に近づかないようにしましょう
・トキを見つけても餌をあたえないでください
・地域に迷惑をかけないようにしましょう



トキの観察マナー動画（https : //www.pref.ishikawa.jp/sizen/toki/manner/index.html）